

名鈔には、无和名俗稱去聲と見えたり、朝鮮語にも泰留と見えたり、○下

〔和漢三才圖會三十一〕樽音 罇音 甌音 罇以上 彝音 俗云太流

按、樽酒器本作尊、而以尊爲尊卑之字、而後加缶、加木、加瓦、加土、今多用樽字、樽乃林木茂盛之字

〔古事記雄略〕是豐樂之日、亦春日之袁杼、比賣獻大御酒之時、天皇歌曰、美那會曾久、淤美能袁登賣、本

陀理登良須母、本陀理斗理、加多久斗良勢、斯多賀多久、夜賀多久斗良勢、本陀理斗良須古、此者宇岐

歌也。

〔古事記傳四十二〕本陀理登良須母は、○註 秀罇取もなり、罇はもと酒を盃に注ぎ入る、器なり、

説文に尊注酒器とあるにて知べし、尊と罇樽と同じことなり、此方にて多理と云物も、古は酒

を注ぐ器なりし故に、此字を當たるなり、されば古の罇は、後世に瓶子、銚子などをを用る如く、用

ひたりし器なり、然るに後世には樽は酒を多理と云名の義は、垂にて其口より酒の垂り出るよ

しなるべし、後世には多流と云は、轉れるにて、鳴鑪をも古はなりかぶらと云しを、後に和名抄

には漆器類に、辨色立成云、樽字亦作罇、見説文、今按無和名とあり、延喜式にも酒罇はいと稀に

見えたるのみなり、是を見れば、古に多理と云し名、中ごろ京畿には失、秀とは其形の長高きを

云なるべし。

樽製作

〔東大寺正倉院文書十五〕尾張國天平六年正稅帳

依太政官天平六年正月十三日符造罇漆口大五

調度價稻肆伯伍束

料漆壹斗貳升 直稻貳伯肆拾束 升別廿束

按漆料絹壹丈 直稻壹拾參束

綿貳屯 直稻貳拾陸束 屯別拾三束

鐵并廻等料鐵壹拾漆斤 直稻壹伯貳束 斤別六束